

ぎふ 2023 統一地方選

政策実現へ一般質問



一般質問に向け、科学館職員にヒアリングするGさん



子ども宅食の支援拠点を訪ね、支援の課題や近況を聞くHさん

軽いフットワークで現場へ ■ 同世代の悩み聞く

Gさん (祝日)

- 午前9時 新病院の安全祈願祭に出席。さまざまな関係者にあいさつ
- 10時半 子どもとよく訪れる科学館で一般質問のためのヒアリング。「より魅力的に」と熱が入る
- 11時半 後援会役員と打ち合わせ。「長くやって力をつけてほしい」と激励される
- 午後4時 党県青年局のオンライン会合。統一地方選に向け若手政治家同士で結束を誓う
- 6時 地元の人と地歌舞伎の稽古に参加。師匠の厳しい指導で同じせりふを何度も練習

Hさん (日曜)

- 午後1時 子ども宅食の支援拠点で近況を聞く。母親から卒業式でのマスク着用との相談も受ける
- 2時 ホッケー場でスポーツ少年団の保護者と会う。部活動の地域移行に向けた準備の進み具合を聞く
- 3時15分 なじみの喫茶店で休憩。店主から「頑張つて」と声をかけられる
- 4時 地元の神社で、餅まき式に参加。神社の維持管理の大変さについて話を聞く
- 6時 支援者と食事会。政治や地域の課題について話し合う

民家の一室に、レトルト食品や菓子が入ったかごがずらりと並んでいた。二月二十六日午後、生活の厳しい子に食品を届ける「子ども宅食」の支援拠点を仕分け作業する女性に、三十代県議のHさんが近況を尋ね

議員のなり手不足が叫ば

密着! 1日

若手

ベテランのような人脈はないが、「いろんな世代の声を聞けるなら政治家に経験の有無や年代は関係ない」とフットワークと現場主義を重視する。この日も、午後だけでなく子ども宅食の支援拠点に加え、スポーツ少年団や地元の神社を回った。

三年前、新型コロナウィルス禍が始まり、困窮するひとり親世帯が増えた。だが、子ども宅食には、こども食堂や学習支援に認められる運営補助金が認められていなかった。県議会で一般質問がきっかけで制度が変わった。Hさんは「政治家は面白い。制度や仕組みを変えられる」と語る。

若者少なく民主主義危機

岐阜県議会では20代が不在で、最年少の県議でも37歳だ。若者政策に詳しい日本福祉大専任講師の両角達平さん(34)は「意思決定が偏った層に限られてしまうのは、民主主義の危機だ。若者が政治家になれるように障壁を下げ、環境を整えていくべきだ」と述べる。

北欧のスウェーデンでは選挙権も被選挙権も18歳以上で、30歳未満の国会議員が全体の約1割を占める。両角さ

んは「欧州では、若い世代への投資が日本よりも早く重視されてきた」と指摘する。

スウェーデンの選挙制度は、国政も地方選挙も政党名で投票する「比例代表制」だ。ほとんどの政党が男性と女性が交互に並んだ候補者名簿を採用し、若い候補者を積極的に擁立している。両角さんは「若者や女性、障害者などいろんな立場や特徴、属性を持った議員が増えることが大事」と話している。

同世代から聞いた悩みを

(長屋文太)

「志願者が少ないのは、県民からの距離が遠いからだ」と肌で感じている。身近に感じてもらうには、「フルカラーの活動報告を頻繁に配るなど、模索を続けている」。

同じく二十代のGさんは二月二十三日、親子連れでにぎわう科学館で職員にヒアリングしていた。県の指定管理者が運営している施設だ。「子どもとよくサイエンスショーを見に来ます。ただ古い映像もありますよね」。職員は「少し変えるだけで何百万円もかかると。古い部分だけ切ることができるのですが」。一般質問で、県に魅力を高める施策を提案する準備という。

「同世代の声を聞けるのは若手の強み。僕らの世代で関わってくれる人を、どんどん巻き込んでいきたい」と思い描く。

一般質問でたどらずことも多く、不妊治療や流産・死産の問題にも向き合ってきた。資料集め、現地調査、文章作成と努力がかかる。影響力のあるベテラン議員ならば職員に直接働き掛けることで政策実現できるかもしれないが、「若手にとつては一般質問が一番の近道」と語る。

この日の夜、継承の役に立てないかと県議になつてから始めた地歌舞伎の稽古に参加。師匠に何度も指導を受ける姿があった。議員の世界でも、これから学ぶことが多い。だが、